



札幌市

ラジオを聞いたことはありますか？ 人の声や音楽を電波にのせて遠くまで届けるラジオは、テレビやインターネットがなかった時代、人々の大切な情報源でした。日本でラジオ放送が始まってから今年で100年。こども記者がラジオの魅力や役割を取材しました。（中出幸恵）

ラジオ放送 広がる世界

こども記者見ぶん録

安藤奏さん（江別市・大森小6年）と高崎夕瑛さん（札幌市・白楊小4年）が、札幌市中央区のラジオ局FM北海道（AIR-G）を訪ねました。毎週金曜日の午後6時から放送している番組「IMAREAL（イマリアル）」の進行役、森本優さん（34）がスタジオへ案内してくれました。室内は分厚いかべで囲まれていて、ドアを開けると外の音は全く聞こえません。

FM北海道「イマリアル」



森本優さん（右）が担当する番組「イマリアル」に出演する安藤奏さん（中央）と高崎夕瑛さん。元気な2人の声はラジオの電波やインターネットを通じて全国に伝わりました。

6月20日、札幌市中央区のFM北海道

番組出演 トークのコツ聞く

2人は「すごい」とスタジオを見渡します。イマリアルは4時間の生放送です。森本さんの「聞いている人の『居場所』になつてほしい」という思いから、番組を聞いている人と電話で話したり、学校を訪ねたりして人々を集め、9年続いています。「4時間の生放送を何人で作っていると思う？」と森本さんが質問しました。安藤さんは「10人くらい？」と答えましたが、正解はなんと3人。メッセージをまとめたり、番組で流す曲を用意したりと、それぞれが仕事をかけ持ちしています。明るく声をかけ合う様子を見て高崎さんは「番組の裏側も楽しそう」と興味を持つたようです。午後6時、番組が始まりました。この日はアイドルグループ乃木坂46の金川紗耶さんと長嶋凛桜さん（いずれも札幌市出身）が出演しました。安藤さんと高崎さんも特別に番組に参加しました。「こなんばんはー」。2人はマイクに向かって元気にあいさつしました。森本さんに「こども記者は何をするの？」と聞かれ、安藤さんは「取材して記事を書いて新聞にのせます」と明るく答えました。高崎さんは「トークで大事にしていることは？」と森本さんに質問し、「聞いている人が分かるように話すこと、最後に自分の気持ちを伝えることです」とフロコのコツを引き出しました。

出演後、高崎さんは「見たり、聞いたり、話したりしてラジオの面白さが分かった、安藤さんは「将来はラジオの仕事をしてみたい」と話しました。森本さんは「ラジオは自分の世界が広がる想像力が豊かになる。小学生にもラジオを聞いてほしいです」と笑顔で2人に話しました。



こども記者の2人は乃木坂46の金川紗耶さん（写真おく左）と長嶋凛桜さん（写真おく右）から「番組、頑張ろうね」と声をかけられました

災害時 頼りになるメディア

ラジオは大きな災害が起きた時に「最も頼りになるメディア」と言われます。停電してテレビやスマートフォンが使えなくなっても、ラジオなら電池や手回し充電で聞くことができるからです。

2018年に胆振地方で大きな地震が起きた時、森本さんはすぐに職場に向かい、停電している地域や避難所の情報などを放送し続けました。

聞いていた人々たちから、「大変な時にいつもの声が聞けて安心した」という反応がたくさんあったそうです。

真剣な表情でその話を聞いたこども記者の2人は、「災害時に、ラジオで大切な情報を受け取れることを覚えておきたい」と言いました。



こども記者の2人は森本優さん（右）から災害時のラジオの役割を聞きました（いずれも小葉松隆さつえい）